

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com☎ 049-227-3001 (FAX兼用) ホームページ <https://hatoyama.info/>

新年のご挨拶

代表理事 愛場謙嗣

■皆様のお力で充実した1年に

2017年から毎年開催の定番企画「熊井の森写真学校」は今年度は年5回に開催回数が増え、そのスピンアウト企画「熊井の森夜の生きもの観察会&写真教室」が8月20日に開催。さらに、熊井の森での活動の集大成ともいえる「鳩山SATOYAMA写真展」を10月8・9・10日の3日間、町政施行40周年記念事業として開催しました。いずれも、写真学校受講者をはじめ多くの方々の協力で実現した企画です。ありがとうございました。

熊井の森の里山づくり活動の方も、「下熊井石場沼下の休耕地の下草刈り」は奥武蔵マウンテンバイク友の会との提携で5年目に。来年2月からは、日本ボーイスカウト東京連盟の練馬第6団が熊井の森でのキャンプ活動を開始します。地域貢献で下草刈り作業もやって下さるそうです。

■2.7haのトラスト地を取得

熊井の森でのトラスト地取得(賃貸を含む)は、年明けには7か所約27,000㎡(2.7ha)になります。ナショナルトラストの目的は自らが地権者となり、維持管理保全することですが、当団体の力量からして取得面積の目標はほぼ達成し、これからは取得山林の管理維持保全活動に力点を移す必要があるでしょう。

「熊井の森」という自然財産を地域おこしに活かす活動も活発でした。地元農家と提携した「栗拾い体験」「柿も

ぎ体験」イベントをリクルートの「じゃらん遊び体験」サイトにアップ。3年目の開催に向け、収穫体験そのものを有料イベントにする際の課題とアイデアも浮き彫りになり、休耕地をお借りして栽培したハトムギは今年も26kg収穫できました。ハトムギ収穫体験イベントには参加申し込みがなく残念でしたが、川越のヤングママや大宮の定年組男性、NTの現役勤め人の男性など新しい仲間ができました。

次に、次年度の活動計画で検討してほしい私からの提案を記します。

■持続可能な里山保全に向けて

①トラスト地の管理保全を重点活動に

- ・複数年計画を立て2.7haのトラスト地の維持管理をおこなう。水害復旧散策路整備、トラスト地散策路案内掲示板の設置、トラスト山林及び周辺休耕地の下草刈り。
- ・熊井の森トラスト地をガイドできる案内人養成のための基礎知識(安全管理、森の生き物や植物、地域特性、保全活動概要)学習カリキュラムを組む。

②持続可能な里山保全体制の構築

- ・継続的な里山づくり支援者の確保のため、熊井の森サポート会員登録制度を研究する。単発的イベント参加とは別に、各種イベントの年間活動に参加できるパスポート的な会員登録がイメージです。
- ・地元地権者は我々と同じで高齢化が進行。次の世代の相続後継者や外部の若い世代との連携を図るために、若者対象に「魅力再発見 熊井の森を語ろうコンサート」のようなもの出来ないか。
- ・地域おこし協力隊の導入。当団体単独では力量不足。外部からの人材・資金援助を促すため、国が推奨する「地域おこし協力隊」制度を活用する。熊井の森という自然財産を活かした地域活性化のアイ



ここは、第15～17期ナショナル・トラスト活動助成制度(令和元～3年度)により、特定非営利活動法人はとやま環境フォーラムが取得した森です。



▲熊井の森の3カ所に設置予定の看板イラスト・西川真以子

デアを募るプロジェクトを地元と共同での申請事業としたい。

- ・当面は当団体が町内外の里山づくり支援者を募る活動を継続。自然財産を活かした地域活性化の助走活動としての収穫体験イベントを継続実施したい。
- ・各種SNSの活用を図る。今の若い世代は活字よりSNSから情報を入手し、それによって参加動機づけを行っており、SNSの充実は必至。若い世代に魅力的な企画をひねり出したい。

来年度の活動計画はこれから理事会と総会で話し合いますが、皆様からのご意見ご提案をどしどしお寄せください。本年もよろしく願いいたします。

<今後の予定>

- 1月28日(土)午前9時より
第5回熊井の森写真学校
かわせみハウス集合
- 1月20日(金)
「鳩山SATOYAMA写真展」カタログ発行

■秋の一日に収穫体験イベント（10月16日）



カラッと晴れた秋の一日。少数メンバーでしたが、柿収穫と焼きたてピザ、熊井の森散歩と盛りだくさんの一日を過ごしました。

柿農家の根岸さんが、自身が栽培されている柿9種類を並べて、色や味の違い、この柿の親はこれだとか、甘柿と渋柿の違いはなに？ とかの栽培家ならではの会話に、「へえー、そうなんだ」と皆、驚いたり、感動したり。その後は、全種類の食べ比べをして、それぞれの味の違いや食感の違いを確かめました。これがかなり好評でした。ぶらぶらと田舎道を、ピザ窯がある栗林へ向かう道、お土産の柿の袋が重いこと、重いこと。

準備されたピザの材料は、厚地のピザ生地、ピザソース・たっぷりのチーズ・ミニトマト・マイタケ・ウインナー・パプリカ、コーンなど、珍しい材料はバナナ・マッシュマロそれにホイップクリーム、これらであまーいデザートピザも作りました。汗をかきながら、石窯の前で、火の具合やピザの焼き加減を研究しながら焼いてくれたお父さんたちに感謝しながら、お腹いっぱいピザをほおばりました。木漏れ日が指す栗林の中、日頃の喧騒を忘れて、のんびりと過ごしました。食事後熊井の森をぶらぶらと散歩。なかなか良い気持ちで有意義な日でした。9月18日には雨の中、ピザ窯のあるクリ林で栗拾い。参加者にはそれなりに楽しんでいただきましたが、やっぱり雨のイベントは負担が大きいと実感しました。



■第3回熊井の森自然学校を開催（10月30日）

第3回講座「SDGs 鳩山版=熊井学の創生に向けて」を鳩山町N Tふれあいセンター3階で開催。プログラムの第1部は、鳩山町熊井地区で活動している当団体と『奥武蔵マウンテンバイク友の会』と『木こりクラブ』からの活動報告が行われたあと、滑川町など



でまちづくり活動をしている地域連携コーディネーター小林みゆきさんによる琴演奏を鑑賞。休憩をはさんで、阿部先生の「SDGs 鳩山版（プログラム第2部）」の講演。2015年にはSDGsが国連で決議され、10年毎の文科省学習指導要綱の改訂では「持続可能な社会づくりの担い手を育てること」としてESD（持続可能

な開発のための教育）が盛り込まれて、理科・社会・生活・数学・英語などの教科書もすべてSDGsの視点を盛り込んだ作り替えが起こっており、今後、SDGsネイティブ世代（持続可能な開発目標にある環境や社会課題を自分事として捉える世代）の子どもたちが誕生してくることなどが話され、大変有意義な講演会でした。

■はとやま祭&文化祭に参加（11月3日）

鳩山町が3年ぶりに開催した「はとやま祭」に参加しました。会場では、環境フォーラムの活動写真を展示し、古本を販売し、アライグマ・ハクビシン・タヌキのはく製も展示。鳩山町中央公民館で開催された「文化祭」では、10月8日に行われた「鳩山SAT OYAMA写真展」の写真パネルを活用し、コンパクトな写真展示も行ないました。コロナ禍の中にもかかわらず、町内出身の若い親子連れなど多くの方が来場していて、鳩山町の自然の素晴らしさとその保全のための活動への理解を深めるひとつのきっかけとなったと思います。

■エコフェスタ比企in鳩山を開催（11月5日）



2015年から毎年春と秋の2回開催している、第15回「エコフェスタ比企in鳩山」を鳩山タウン中央広

場&緑道で開催しました。良い天気恵まれ、住民自治会のバザー、新刊本半額コーナー、植木鉢、ガーデン・カフェ・ベーカリー「グーチョキパン」の沢山の種類パン、手作りシュトレン（ドイツの菓子パン）、地元tack farm（隔週火曜日・かわせみハウス前出店）の有機野菜（菊芋、ムラサキ芋、ビーツなど）のほか、ハト麦やアマニの種など大人気の農産物、コパンの会による手作り小物販売がありました。環境フォーラムもミニ「熊井の森」写真展を開催。来場者にとって、ひと時の楽しい交流の場になったのではないのでしょうか。次回開催は5月中旬頃。

■ボーイスカウト練馬第6団と協議（11月26日）

練馬第6団の隊長さんら4人とかわせみハウスで協議。15人から20人程度で一泊2日か2泊3日のキャンプを年2、3回ほどやりたい。コロナでテントは1人1張り、立ちかまど設置。自然を傷めず、自然の知識を深めたい。下草刈りなどで地域貢献もしたいとのことで、2月に第1回目のキャンプをすることに。

■環境フォーラム意見交換会&懇親会を開催（12月11日）

午後1時からの大掃除の後、意見交換会をやりそのまま懇親会に。参加者は15人ほどでした。まじめに話し合いをしたのですが、懇親会で好きな日本酒でいい気持ちになり、すっかり忘れてしまいました。車で来たとか、数年前から健康のためアルコールはやめた、とか、そもそも飲まないという人がほとんどで、お酒を飲む人はたった2人。それでもけっこうな盛り上がりで来年もよろしくと定刻通りに閉会しました。

■ハトムギの枯れ穂の野焼き（12月25日）

畑の持ち主の小鷹綾子さんがトラクターで土起こしをしてくださったあと、畑に野積みにしてあったハトムギの枯れ穂の始末が年末ぎりぎりにやっとできました。とは言っても、2台の立ちかまどで焼却できたのは少量で、残りは年明けに細かく切って畑に敷き詰めることにしました。